

決算書 (P358～P361)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課・スポーツ 推進課
事業名	ユートピアくびき管理運営費		

2 施設管理における市の収支状況

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	9,031	8,001	9,850	7,492
	その他	397	9,711	398	306
	合計	9,428	17,712	10,248	7,798
②支出	施設維持管理費	83,615	98,323	86,170	80,254
	うち委託料	11,338	26,698	11,885	11,622
	その他	-	-	-	-
	合計	83,615	98,323	86,170	80,254
③公費投入額 (②-①)	74,187	80,611	75,922	72,456	
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)	485	587	496	928	

3 主な修繕・工事の内容

- ・希望館：多目的ホール移動観覧席制御装置修繕 1,300、非常用バッテリー交換修繕 468、エレベーター修繕 297
- ・B&G海洋センター：ボイラー熱交換器修繕 79
- ・ふれあいグラウンド：人工芝修繕 185

【事業の成果】

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための施設の休館や利用者の活動自粛などの影響により利用者数が大幅に減少した。このような状況の中でも感染症対策を実施しながら、市民の多様なニーズにあわせ、文化・スポーツ・レクリエーション活動の場を提供することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全・安心に利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

○その他 5,916

- ・報酬、費用弁償ほか 1,453 (会計年度任用職員の勤務実績による)
- ・消耗品費、燃料費、光熱水費ほか 4,463

(単位：千円)

決算書 (P360～P361)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	はーとぴあ中郷管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
18,864	17,381	2,000			577 (使用料、財産収入、 諸収入)	14,804
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,483			502	981	

【目的】

市民の教養と文化の向上及び生涯学習の振興を図り、魅力ある地域社会の形成に資するため、施設の維持管理運営を行う。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

1 利用者数等

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
			計画	実績
利用件数(件)	414	424	500	281
利用者数(人)	13,364	12,849	12,000	7,168

2 施設管理における市の収支状況

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	684	430	769	453
	その他	159	153	184	2,124
	合計	843	583	953	2,577
②支出	施設維持管理費	16,122	15,099	18,864	17,381
	うち委託料	6,683	6,483	7,777	7,083
	その他	-	-	-	-
	合計	16,122	15,099	18,864	17,381
③公費投入額(②-①)	15,279	14,516	17,911	14,804	
④利用者1人当たりの公費投入額(単位：円)	1,143	1,130	1,493	2,065	

3 主な修繕の内容

屋外時計撤去 150、自動ドア修理 63、ガス漏警報器修理 46

決算書 (P 360～P 361)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	はーとぴあ中郷管理運営費		

【事業の成果】

- ・コロナ禍ではあったものの、市民による自主的な活動、レクリエーション活動の場として、生涯学習や生涯スポーツ、イベント、集会等に利用されたほか、公民館事業など市の各種事業の会場として利用した。
- ・地域住民のほか、隣接する地域の方々の利用もあり、交流の場として活用された。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための利用制限や活動自粛により利用件数が目標を大きく下回った。
- ・利用者数の増加を図るため、関連団体や関係者への施設紹介を行っていく。
- ・地域住民から積極的に利用してもらうため、総合事務所だよりや周知用チラシ等を活用した事業PRを継続する。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全・安心に利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

○入札差金 502

- ・施設管理委託料（清掃業務、冷暖房設備保守管理ほか） 79
- ・備品購入費（除雪機購入） 423

○その他 981

- ・消耗品、修繕費ほか 14
- ・光熱水費 297
- ・委託料（受付事務、周辺整備） 614
- ・使用料及び賃借料 56

(単位：千円)

決算書 (P360～P361)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
24,268	23,128	2,000			974 (使用料、諸収入)	20,154
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,140			454	686	

【目的】

地域における生涯学習及び生涯スポーツを促進し、生活文化の振興を図るため、地域生涯学習センターの管理運営を行う。

令和 2 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

コミュニティ圏域の活動の拠点として、また、市民の生涯学習活動の場として、維持管理を行い、年間6,698人が利用した。

○施設の管理実績

・地域生涯学習センター利用者数等

区名	施設名	平成30年度		令和元年度		令和2年度		
		利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数(人) 計画 実績	
安塚区	中川	74	1,076	66	881	38	881	445
	伏野	38	920	34	665	18	665	175
	菱里	16	1,060	12	803	1	803	20
	船倉	17	340	7	135	3	135	33
	須川	40	266	47	248	44	248	262
	小計	185	3,662	166	2,732	104	2,732	935
大島区	大島	67	1,148	70	1,182	25	1,240	279
吉川区	吉川旭	88	1,318	78	1,140	34	1,100	317
	源	53	1,788	36	1,417	47	1,200	1,162
	小計	141	3,106	114	2,557	81	2,300	1,479
中郷区	片貝	44	1,912	46	1,467	45	2,000	443
清里区	櫛池	36	1,045	39	1,194	36	1,200	560
名立区	下名立	3	77	4	83	0	0	0
	不動	272	2,498	306	3,001	134	3,000	1,410
	小計	275	2,575	310	3,084	134	3,000	1,410
合計		748	13,448	745	12,216	425	12,472	5,106

決算書 (P 360～P 361)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

・片貝縄文資料館利用者数等

区 分	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	
						計画	実績
部屋利用	68	2,315	63	1,883	42	2,100	1,249
資料館		1,385		923		1,000	343
合 計		3,700		2,806		3,100	1,592

・施設管理における市の収支状況

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度		
			予 算	実 績	
①収入	使用料収入	464	379	493	264
	その他	761	691	709	2,710
	合計	1,225	1,070	1,202	2,974
②支出	施設維持管理費	26,761	22,295	20,502	23,128
	うち委託料	5,252	4,923	5,747	6,628
	その他	-	-	-	-
	合計	26,761	22,295	20,502	23,128
③公費投入額 (②-①)	25,536	21,225	19,300	20,154	
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位:円)	1,489	1,413	1,239	3,009	

※片貝縄文資料館の利用者数等を算定に含む。

・各区施設の主な整備等内容

区 名	施設整備等の内容 (業務委託・修繕・工事)
安塚区	○機械警備 (中川 79)、貯水槽清掃 (菱里 25)、浄化槽維持管理 (中川 42、伏野 136、菱里 132、船倉 53)、消防設備点検 (中川 59、伏野 55、菱里 124、船倉 52、須川 48)、施設管理 (中川 190、伏野 151、船倉 142、須川 172) ○小型除雪機修繕 (菱里 29)、給湯器入替 (菱里 114)、浄化槽ばっ気ブロー修繕 (船倉 35)、外灯修繕 (菱里 17)、浄化槽ばっ気ブロー修繕 (菱里 10)、職員室ファンヒーター入替 (菱里 242)、調理室漏水修繕 (中川 9) 調理室水栓修繕 (菱里 8)
大島区	○浄化槽清掃 (159)、消防設備点検 (51)、清掃 (30)、除雪 (412)
吉川区	○消防設備点検 (31)、草刈等 (旭 105)、浄化槽管理 (源 144) ○浄化槽ポンプ (源 200)
中郷区	○機械警備 (91)、施設維持管理 (337)、消防設備点検 (429)、地下タンク定期点検 (50)、熱風炉保守点検 (275)、自家用電気工作物保安管理 (125)、椅子式階段昇降機保安点検 (40)、防火設備点検 (148)、建築物及び建築設備定期点検 (316) ○除雪機修繕 (21)、除雪機購入 (2,068)
清里区	○屋外維持管理 (176)、水道滅菌機保守 (88)、消防用設備等維持点検 (94) 貯水槽清掃等 (45)、屋根雪除雪 (385) ○誘導灯交換 (66)、屋内消火栓 (132)、図書室巾木 (77)、電気契約容量変更 (48)
名立区	○施設維持管理 (不動 263)、消防用設備保守点検 (不動 137)、草刈等 (下名立 48)、建物定期点検 (不動 97)、除雪 (不動 768)、冬囲い (不動 17) ○災害備品庫ガラス入替 (不動 33)、誘導灯 (不動 72)

決算書 (P360～P361)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

【事業の成果】

生涯学習及び生涯スポーツのほか、コミュニティ圏域における集会や会議、地域行事等の場を提供し、利用者が心豊かに教養を高め、健康の増進を図るなど、地域における生活文化の振興に寄与することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・各生涯学習センターは、閉校した小学校を活用しており、建物の耐用年数の到来や老朽化が進行していることから、これらを踏まえながら、施設管理運営を行っていく努める必要がある。
- ・施設管理運営に当たっては、各地域における施設の利用実態を踏まえ、地域に根ざした活動の場がなくならないよう配慮した上で、利用する地域住民と施設の今後の在り方に係る協議を丁寧を重ねていく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全・安心に利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 454
 - ・委託料、備品購入費ほか
- その他 686
 - ・報酬、共済費及び旅費 174
 - ・光熱水費ほか 423
 - ・使用料及び賃借料ほか 89

(単位：千円)

決算書 (P360～P363)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	野外活動施設管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
2,555	2,474					2,474
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	81			1	80	

【目的】

青少年の健全育成を推進するため、大潟野外活動施設の適切な管理運営を行う。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

<指定管理の状況>

導入開始年度	平成18年度
指定管理者名	大潟観光協会
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日

○施設の管理実績

・利用者数

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
			計画	実績
利用者数	12,899人	13,893人	8,000人	2,107人

・指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
			予算	実績	
①収入	-	-	-	-	
②支出	修繕料	148	206	205	
	役務費	9	-	-	
	委託料	2,003	1,850	2,246	2,246
	新型コロナウイルス減収補填金*	-	-	103	23
合計	2,012	1,998	2,555	2,474	
③公費投入額(②-①)	2,012	1,998	2,555	2,474	
④利用者1人当たりの公費投入額(単位：円)	156	144	319	1,174	

*新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協定に基づいて減収分を補填したもの

決算書 (P 360～P 363)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	野外活動施設管理運営費		

○指定管理者の収支状況等

区分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度		
			計 画	実 績	
①収入	利用料金収入	97	91	79	—
	管理運営委託料	2,003	1,850	1,850	1,850
	新型コロナウイルス減収補填金*	—	—	—	23
②支出	2,044	1,974	1,929	1,873	1,873
差 引 (①-②)	56	△33	0	0	0

※新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協定に基づいて減収分を補填したもの

【事業の成果】

- ・利用者の安全・安心と施設の適切な維持管理のため、指定管理者が日常点検及び簡易修繕などを行ったことにより、事故の発生件数は0件だった。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、市内小・中学校の野外学習やデイキャンプの利用が例年より非常に少ない結果となった。
- ・誰でも気軽に利用できる状態を維持するため、トリム遊具の日常的な点検等を行い、安全な利用環境の確保を図る。

【執行残額について】

- 入札差金 . 1
 - ・修繕料 (遊具撤去修繕)
- その他 80
 - ・指定管理減収補填金

(単位：千円)

決算書 (P362～P363)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	七ヶ地区コミュニティセンター管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
810	743				223 (使用料、請収入)	520
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	67			2	65	

【目的】

集会、学習、レクリエーション活動などの多目的な活動の場を提供し、地域住民の生活文化の向上に寄与するため、施設の管理運営を行う。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

1 利用者数等

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
			計画	実績
利用件数(件)	369	355	400	294
利用者数(人)	4,011	3,967	4,100	2,600

2 施設管理における市の収支状況

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	263	250	284	213
	その他	10	10	9	10
	合計	273	260	293	223
②支出	施設維持管理費	906	804	810	743
	うち委託料	143	145	237	235
	その他	-	-	-	-
	合計	906	804	810	743
③公費投入額(②-①)	633	544	517	520	
④利用者1人当たりの公費投入額(単位：円)	158	137	126	200	

3 主な修繕・工事の内容

- ・1階大会議室エアコン修繕 198
- ・網戸張替修繕 17

決算書 (P362～P363)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	七ヶ地区コミュニティセンター管理運営費		

【事業の成果】

施設の適切な管理を行い、七ヶ地区の6町内会（法音寺、金谷、東谷内、雁海、下中山、小萱）に、地域に根差した多様な活動の場を提供し、地域住民の生活文化の向上に寄与した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、地域住民及び市民が安全・安心に当該施設を利用できるよう、利用実態と施設の機能に応じて計画的な修繕等を行い、適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 2
 - ・委託料
- その他 65
 - ・報償費 13
 - ・燃料費 11
 - ・光熱水費 38
 - ・修繕料ほか 3

(単位：千円)

決算書 (P362～P363)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越科学館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
96,883	93,785			14,900		78,885
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	3,098			715	2,383	

【目的】

上越地域における科学的な知識の普及や科学に親しむ習慣の形成に寄与するため、上越科学館の管理運営を行う。

令和 2 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和 2 年度目標

- ・上越地域の科学教育の拠点施設として科学的な知識の普及や科学に親しむ習慣の形成、科学的な理解力を育むよう質の高い事業及びサービスを提供する。
- ・年間利用者：108,000 人

○実施内容、これまでの経過等

・指定管理の状況

制度導入年度	平成 30 年度
指定管理者名	新東産業株式会社
指定期間	平成 30 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日まで

・施設の管理実績

<利用者数>

(単位：人)

区分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	
			計画	実績
利用者数	108,494	103,420	108,000	35,172

決算書 (P 362～P 363)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越科学館管理運営費		

・指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度		
			予 算	実 績	
①収入	76	1,976	15,500	14,900	
②支出	修繕料	416	4,621	2,122	2,121
	委託料	63,300	64,704	65,363	65,362
	使用料及び賃借料	1,794	1,795	1,813	1,812
	新型コロナウイルス減収補填金*	-	1,647	10,136	7,758
	その他施設維持管理費	-	-	17,449	16,732
合 計	65,510	72,767	96,883	93,785	
③公費投入額 (②-①)	65,434	70,791	81,383	78,885	
④利用者 1 人当たりの公費投入額 (単位: 円)	603	685	754	2,243	

※新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協定に基づいて減収分を補填したもの

○指定管理者の収支状況等

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度		
			計 画	実 績	
①収入	利用料金収入	25,198	22,532	24,300	8,211
	管理運営委託料	47,000	47,870	47,794	47,794
	新型コロナウイルス減収補填金*	-	1,647	-	7,758
	その他	3,587	3,351	4,432	1,907
②支出	79,439	78,484	76,526	69,350	
差引 (①-②)	△3,654	△3,084	0	△3,680	

※新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協定に基づいて減収分を補填したもの

○目標達成状況

- ・コロナ禍において自主事業の中止や変更を余儀なくされたが、そのような状況下でも指定管理者による発明工夫・模型工作展や標本作品展、パッケージクラフト展など、青少年が科学に親しむことを後押しする事業を提供することができた。
- ・令和 2 年 4 月 19 日から 5 月 10 日まで施設を臨時休館したほか、集客が見込める夏期特別展や科学の祭典を中止としたことで、年間利用者数は 35,172 人となった。

決算書 (P362～P363)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越科学館管理運営費		

【事業の成果】

- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、施設利用者及び事業参加者が安全・安心に利用できるように、施設の適切な管理運営等を行うことができた。
- ・県内及び隣接県の小中学校、旅行代理店などへのPRハガキによる周知、公式YouTubeチャンネル「おうちでサイエンス」の開設など、コロナ禍における当館の宣伝活動、科学の普及活動に努めた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、施設利用者及び事業参加者が安全・安心に利用できるように、施設の適切な管理運営を行うとともに、青少年が科学に親しむことを後押しするよう事業や展示の充実に努める必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 715
 - ・昇降機取替工事
- その他 2,383
 - ・指定管理減収補填金ほか

(単位：千円)

決算書 (P 362～P 365)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
62,019	54,320				604 (寄附金、講座収入)	53,716
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	7,699				7,699	

【目的】

多様な学習活動を通じて参加者同士が学び合い、互いに高め合う機会と場を提供しながら、人づくりの推進を図る。また、地域社会の発展のために学習成果がいかされるような活動を支援するとともに、地域の団体や関係機関と連携しながら、地域コミュニティの活性化や地域の教育力の向上を図る。

令和 2 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

公民館事業 53,193

○令和 2 年度目標

実施内容の表に掲げる(1)学びのきっかけづくり、(2)未来を支える人づくり、(3)育ち合い、支え合う家庭環境づくり、(4)地域・現代課題に対応した地域づくりに該当する 187 事業(当初予算における計画事業数)の受講者総数：4,125 人

○実施内容、これまでの経過等

<事業の実施状況>

・総事業数：174 事業

うち、中央公民館事業 ※市内の全地区の市民が対象(以下「中央」という。)5 事業
地区公民館事業 ※主に各地区の市民が対象(以下「地区」という。)169 事業

受講者延べ人数：8,704 人(中央：193 人、地区：8,511 人)

このうち、目標に掲げた 4 つの事業に該当するもの

事業数：133 事業(中央：5 事業、地区：128 事業)

受講者数：4,676 人(中央：193 人、地区：4,483 人)

(1)学びのきっかけづくり	目的	地域住民のニーズに応じた趣味や教養講座等から個人の学びの意欲を高めるとともに、交流の輪を広げる。
	事業分類	趣味・教養講座、体育・レクリエーション講座
	事業例	まち巡り講座、筆ペン教室、トランポビクス教室など 51 事業 (中央：2 事業、地区：49 事業)
	受講者延べ人数	1,991 人(中央：65 人、地区：1,926 人)

決算書 (P 362～P 365)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館事業		

(2)未来を支える人づくり	目的	地域資源及び地域の人材を活用した体験活動や交流等を通じて、子どもたちの豊かな心をはぐくむ。
	事業分類	青少年教育活動事業、キッズフェスタ事業
	事業例	子ども体験教室、星空観察会、クラフト教室など 19 事業（中央：1 事業、地区：18 事業）
	受講者延べ人数	638 人（中央：37 人、地区：601 人）
(3)育ち合い、支え合う家庭環境づくり	目的	子どもが健やかに育つよう家庭の教育力向上を図るとともに、子どもの居場所づくりに努める。
	事業分類	家庭教育支援講座、親子活動講座、夏休み☆子どもつどいのひろば
	事業例	家庭教育支援講座、親子ふれあい書初め大会、夏休み☆子どもつどいのひろばなど 25 事業（中央：-事業、地区：25 事業）
	受講者延べ人数	732 人（中央：-人、地区：732 人）
(4)地域・現代課題に対応した地域づくり	目的	各地域自治区における地域の課題や情報モラル等の現代課題を学習することにより、課題解決に向けた意識を高める。
	事業分類	元気の出るふるさと講座、地域・現代課題講座、公民館のつどい
	事業例	地域づくり講座、防災講座、防犯出前講座など 38 事業（中央：2 事業、地区：36 事業）
	受講者延べ人数	1,315 人（中央：91 人、地区：1,224 人）
(5)行動する人への支援	目的	これから行動しようとする人や自主的に活動している団体、個人への活動支援を通じて、活動機会の提供及び活動の維持・継続を図る。
	事業分類	分館事業、ボランティア活動、団体、サークル及び地域活動への支援、生涯学習フェスティバルなど
	事業例	地域公民館事業、健康ウォーク、作品展など 41 事業（中央：-事業、地区：41 事業）
	受講者延べ人数	4,028 人（中央：-人、地区：4,028 人）

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を注視しながら、市民の安全と健康を第一に事業を企画し、中止や縮小も考慮しつつ、十分な対策が可能な場合に事業を実施した。
- ・最終年度となった「元気の出るふるさと講座」（5 回/年、3 年連続講座）では、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら 4 地区で活動が実施され、延べ 254 人が参加した。地域の特色や歴史を学んだり、現状把握や魅力発見に取り組んだりしたこれまでの活動を、冊子やペーパーにまとめて地域に発信するなど、講座を通じて今後の地域づくりにつながる働きかけができた。
- ・全市が対象となる中央公民館事業では、不特定多数の接触が生じる大規模な事業や上越・妙高・糸魚川三市による広域連携事業などは中止した。現役世代を対象とした「オーレン☆ナイト講座」や、子どもを対象とした「親子でチャレンジ！ドイツ工作教室」では、新型コロナウイルス感染症対策として人数制限や三密対策を徹底し実施した。

決算書 (P362～P365)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館事業		

○目標達成状況

実施内容の表(1)から(4)までの事業では受講者数が 4,676 人となり、コロナ禍での目標を達成できた。



元気の出るふるさと講座
(直江津地区公民館)



親子でチャレンジ！ドイツ工作教室
(中央公民館)

公民館図書室事業 1,127

○実施内容、これまでの経過等

上越市立図書館と連携を図り、図書の貸出・返却配送サービスや、図書資料の巡回配置、新刊図書情報の受信・提供を実施するとともに、公民館利用者や図書室利用者のリクエストに基づいた選書を行い、公民館事業に関連した資料や、館内で読書をする人に対応した資料、子どもの居場所づくりに対応した資料を揃え、住民にとって身近な公民館として読書啓発活動の推進に努めた。

【事業の成果】

- ・コロナ禍で多くのイベント等が中止となる中、学習・体験・交流の貴重な機会を安全に提供できるよう努め、市民の学びの意欲や地域への関心、人とのつながりを保つことができた。
- ・市民が気軽に集い、共に学び合い、交流を深められる事業を実施することで「学びの輪が人をはぐくみ地域を支えるまち」の実現に向けた人づくり、地域づくりに寄与できた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・事業の効果が地域での実際の活動や取組につながるよう継続して支援し、人づくり、地域づくりを推進していく必要がある。
- ・地域課題、現代課題への対応を目的とした活動では、地域のニーズや特性を的確に捉えるとともに、企画段階から地域住民や団体と相互理解を深めた上で連携・協力していく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に合わせ、事業実施の可否や手法、対策について引き続き検討していく必要がある。

【執行残額について】

○その他 7,699

- ・報酬、共済費 1,738
- ・報償費 3,910
- ・旅費 613
- ・消耗品費 554
- ・手数料 306
- ・保険料、私有車借上料ほか 578

(単位：千円)

決算書 (P364～P365)	10款5項2目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
153,610	146,543			18,900	7,195 (使用料、財産収入、 諸収入)	120,448
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	7,067			297	6,770	

【目的】

地域活動の活性化を促すため、公民館施設の適切な管理運営を行う。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

地域の社会教育活動の拠点施設として、また、市民の生涯学習活動の場として、維持管理を行い、年間約14万人が利用した。

○施設の管理実績

・利用者数等

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数(人)	
						計画	実績
高田地区公民館	-	-	-	-	-	-	-
新道地区公民館	614	4,510	582	4,374	394	4,242	2,820
金谷地区公民館	889	9,808	1,055	10,342	679	10,905	6,437
和田地区公民館	472	3,083	467	4,082	387	5,405	2,192
津有地区公民館	1,219	15,910	1,323	21,600	960	29,325	16,872
高土地区公民館	501	10,346	572	9,115	405	8,030	5,234
三郷地区公民館	253	3,691	328	4,766	242	6,154	2,542
諏訪地区公民館	383	5,674	344	5,164	248	4,700	2,563
有田地区公民館 (カルチャーセンター)	3,248	72,392	3,151	58,562	2,445	47,374	41,638
保倉地区公民館	96	2,086	111	2,533	90	3,076	1,657
北諏訪地区公民館	282	3,165	283	2,957	208	2,763	1,913
谷浜・桑取地区公民館	650	5,265	592	4,848	491	4,464	5,392
桑取分館	134	1,399	123	1,321	105	1,247	998
計	8,741	137,329	8,931	129,664	6,654	127,685	90,258
13区計	8,257	102,836	7,457	95,894	5,525	99,400	59,579
合計	16,998	240,165	16,388	225,558	12,179	227,085	149,837

決算書 (P364～P365)	10款5項2目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館管理運営費		

※高田地区公民館は、「上越市市民交流施設高田城址公園オーレンプラザ」に併設のため除外
 ※直江津地区公民館は、「直江津学びの交流館」に併設のため除外
 ※春日地区公民館は、「上越市春日謙信交流館」に併設のため除外
 ※八千浦地区公民館は、「上越市八千浦交流施設はまぐみ」に併設のため除外

・13区の内訳

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数(人)	
						計	画
浦川原区	229	2,061	223	2,238	172	2,200	1,479
大島区	254	3,275	185	2,462	152	2,400	1,742
柿崎区	2,663	30,567	2,494	26,630	1,683	29,500	14,249
大潟区	735	7,033	641	7,163	460	6,800	4,537
頸城区	1,151	11,960	865	10,570	473	12,000	5,223
吉川区	618	10,336	524	11,766	393	11,000	7,159
板倉区	857	18,014	952	17,871	1,126	18,000	15,212
三和区	199	2,790	133	2,490	86	2,800	1,546
名立区	1,551	16,800	1,440	14,704	980	14,700	8,432
合計	8,257	102,836	7,457	95,894	5,525	99,400	59,579

※各区は、分館利用件数、利用者数を含む。
 ※安塚区、牧区、中郷区及び清里区の地区公民館は、他の生涯学習施設や総合事務所等に併設のため除外
 ※頸城地区公民館は「ユートピアくびき」に併設のため除外し、5つの分館分を記載

・施設管理における市の収支状況

区分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
				予	算
①収入	使用料収入	7,459	6,454	7,786	5,738
	その他	1,933	16,328	27,140	20,357
	合計	9,392	22,782	34,926	26,095
②支出	施設維持管理費	126,517	139,057	153,610	146,543
	うち委託料	27,223	31,063	36,812	35,495
	その他	-	-	-	-
	合計	126,517	139,057	153,610	146,543
③公費投入額(②-①)		117,125	116,275	118,684	120,448
④利用者1人当たりの公費投入額(単位:円)		488	515	523	804

決算書 (P364～P365)	10款5項2目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館管理運営費		

【事業の成果】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動の自粛や大雪に伴う休館の影響もあり、全体の利用件数・利用者数は令和元年度を下回ったものの、多くの市民の利用があり、地域の拠点として生涯学習活動及び地域活動の場を提供することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・最も身近な生涯学習施設として、幅広い世代の地域住民が快適に利用できるように、引き続き適切な管理運営を行っていく。
- ・各地区公民館及び分館については、配置数や施設の利活用の状況、規模や建物の老朽化の度合い等が様々であることを踏まえながら、管理運営に努める必要がある。
- ・施設管理運営の改善に当たっては、社会教育の推進事業や活動のほか、各地域における施設の利用実態を踏まえ、地域に根ざした活動の場がなくならないよう配慮した上で、利用する地域住民と施設の今後の在り方に係る協議を丁寧を重ねていく必要がある。
- ・建物の老朽化や設備の経年劣化が進んでいることから、緊急度や必要性を考慮しながら計画的な修繕や更新を行う必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全・安心に利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 297
 - ・委託料
- その他 6,770
 - ・報酬、共済費及び報償費ほか 1,801
 - ・燃料費、光熱水費 2,979
 - ・施設管理委託料、使用料及び賃借料ほか 1,990

(単位：千円)

決算書 (P364～P365)	10款5項2目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	市民交流施設高田城址公園オーレンプラザ管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
42,590	37,515				10,305 (使用料、財源収入、 諸収入)	27,210
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	5,075			1,808	3,267	

【目的】

多くの市民が集い、語らい、活動し、交流する場として、充実した活動を行うことができるよう、施設の適切な管理運営を行う。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

市民交流や子育て支援の拠点施設として、また、市民団体の活動発表の場として、維持管理を行い、年間100,200人が利用した。

○施設の管理実績

・利用者数

(単位：人)

	ホール	ホール以外の貸館施設	こどもセンター	見学・視察	合計
平成30年度	31,531	57,428	93,926	24,521	207,406
令和元年度	30,691	59,683	78,120	25,694	194,188
令和2年度	11,740	31,642	45,241	11,577	100,200

・施設管理における市の収支状況

区分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
				予算	実績
①収入	使用料収入	11,411	11,133	13,237	9,344
	その他	1,722	1,651	1,806	961
	合計	13,133	12,784	15,043	10,305
②支出	施設維持管理費	37,676	36,467	42,590	37,515
	うち委託料	22,063	21,642	25,804	23,614
	その他	-	-	-	-
	合計	37,676	36,467	42,590	37,515
③公費投入額(②-①)		24,543	23,683	27,547	27,210
④利用者1人当たりの公費投入額(単位：円)		118	122	-	272

決算書 (P 364～P 365)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	市民交流施設高田城址公園オーレンプラザ管理運営費		

【事業の成果】

市民団体との協働によるジョイント形式のコンサートのほか、オーレンプラザや施設利用団体による合同発表会などの自主事業により市民交流を創出するとともに、施設の維持管理を適切に行い、様々な市民団体の交流及び活動発表の場として活用された。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年4月19日から5月10日まで施設を臨時休館したほか、令和3年1月の大雪や一斉除排雪の実施に伴う臨時休館などにより、利用者数が令和元年度を下回った。
- ・利用者の安全を確保するため、新しい生活様式を取り入れた新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、地域交流や市民交流の拠点としての役割を継続的に果たしていくことが必要である。

【執行残額について】

- 入札差金 1,808
 - ・施設管理委託料、備品購入費ほか
- その他 3,267
 - ・光熱水費ほか（事業実績による残）

(単位：千円)

決算書 (P366～P367)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	読書普及・自主活動事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
278	266					266
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	12	3			9	

【目的】

- ・市民が本とふれあう機会や、活字による読書が困難な方への図書館サービスを提供することにより、広く読書活動の普及を図る。
- ・上越市子ども読書活動推進計画（第3次）に基づき、子どもの自主的な読書活動を推進するための取組を行う。
- ・視覚に障害がある方や活字による読書が困難な方を対象とした資料を整備・提供し、広く図書館サービスの利用促進を図る。

令和 2 年 度 の 取 組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

読書活動推進事業 154

○令和2年度目標

- ・読書活動の推進に向け、主に子どもを対象とした各種催し等を実施し、図書館利用者の増加を目指す。
- ・読書活動推進事業への参加者数：8,400人

○実施内容、これまでの経過等

(1) こどもの読書週間及び読書週間事業の実施

- ・こどもの読書週間(4/23～5/12)と読書週間(10/27～11/9)に合わせ、司書が推奨する絵本や読み物のブックリストを作成し、図書館利用者や市内の小学校に配布するとともに、各館でリスト掲載本の展示を併せて行った。
- ・新潟県立図書館が所蔵する復刻版絵本を展示する「復刻世界の絵本館 オズボーンコレクション」や、折り紙工作で豆本の作成を行った。
- ・コロナ禍において、来館せずに参加できる催しとして「おうちでチャレンジ図書館クイズ」を図書館ホームページに掲載することで、在宅でも参加可能な本との出会いの場を提供した。

(2) 読書活動推進事業の実施

- ・読み聞かせボランティア団体と協力し、乳幼児から小学生までを対象とした絵本の読み聞かせ会を、全館で定期的の実施した。(ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年4～5月は開催を中止した。)

決算書 (P366～P367)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	読書普及・自主活動事業		

- ・その他の催し物も、実施可能なものを検討し、時期や内容を工夫して行った。
- ・直江津学びの交流館オープン 10 周年を記念して、思い出に残る催し物等の写真や、市民の皆さんからいただいたメッセージを展示した。

(3) 学校及び公民館図書室との連携

- ・学校活動の補助として活用できる資料の貸出しや、学校へ出向いてのおはなし会を行うことで、児童への読書活動支援を行った。また、コロナ禍での児童への支援として、放課後児童クラブへの特別貸出しを実施した。
- ・絵本やおはなしにちなんだ料理を給食献立に取り入れて、子どもたちに本に対する興味・関心を持ってもらえるよう令和元年度から小・中学校で取組を始めた「おはなしランチ」について、令和 2 年度は幼稚園・保育園へも拡充して実施した。
- ・令和 3 年度に向けて中高校生の学校生活を支援するため、「春のティーンズ応援フェア 2021 ところどころブックリスト」を作成し、図書館利用者や市内の中学校・高等学校に配布するとともに、各館でリスト掲載本の展示も併せて行った。

(4) 図書館利用者登録の推進

- ・9 月のがん征圧月間に合わせ、情報を得るため参考となる市立図書館所蔵資料を紹介した「がんへの支援ブックリスト」を作成し、上越医療圏のがん連携拠点病院である新潟県立中央病院や上越保健所、健康づくり推進課に設置してもらうとともに、高田図書館で該当資料の展示を行うことで、図書館資料の有効活用、登録・利用促進を図った。
- ・新小学 1 年生の入学準備期間に合わせて、図書館利用案内を配布し、登録の促進を図った。

○目標達成状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館や催し物を休止していた期間があったことから、読書活動推進事業の参加者数は 3,817 人とどまり、目標は達成できなかった。

障害者サービス事業 112

○令和 2 年度目標

視覚に障害がある方などに向けた資料の年間貸出タイトル数：560 タイトル

○実施内容、これまでの経過等

ボランティア団体との協働により、デージー図書（CD-ROM 形式の録音図書）を新たに 55 タイトル作成し、所蔵資料の充実を図ることができた。

○目標達成状況

録音図書等の資料の年間貸出タイトル数は 589 タイトルで、目標を達成できた。

【事業の成果】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、催し物などの活動を休止あるいは縮小する期間があったが、ボランティア団体との協働により、感染症対策を徹底して、令和 2 年 6 月におはなし会を再開し、以後、年間を通して定期的に開催することができた。

決算書 (P 366～P 367)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	読書普及・自主活動事業		

- ・コロナ禍により、学校との連携が大きく制限されたが、別の形で児童への支援策として、放課後児童クラブへの特別貸出しを実施し、24の放課後児童クラブへ延べ79回2,370冊の本を届けることで、外出制限の中にあっても児童に読書をする環境を提供することができた。
- ・録音図書の利用は郵送によるものが多いため、コロナ禍でも貸出数の減少は見られなかった。また、新規作成も、ボランティア団体との接触機会を最小限にとどめつつも積極的に進めることができ、所蔵の充実を図ることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

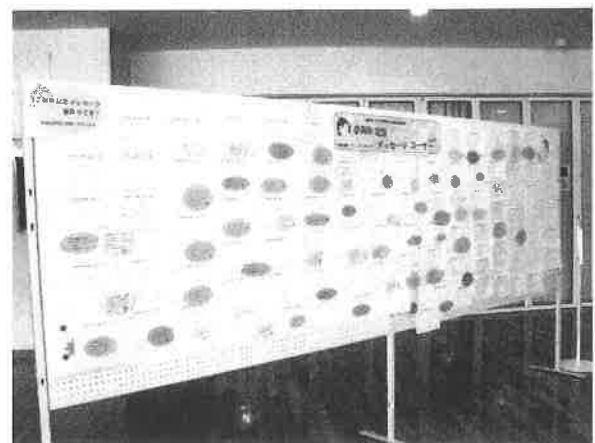
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館や図書館こども祭といった催し物を休止していた期間があったため、おはなし会など読書活動推進事業の参加者数は目標を達成できなかった。
- ・今後も新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を注視しつつ、新しい生活様式を取り入れた感染症対策を整え、利用者が安全に参加できる事業を行う必要がある。
- ・上越市子ども読書活動推進計画（第3次）に基づき、関係部署と連携して計画を実行するとともに、その結果について図書館協議会に諮り、意見・提案を計画の推進に反映する。

【執行残額について】

- 事業費節減 3
 - ・運搬料
- その他 9
 - ・報償金、消耗品費



直江津学びの交流館 10周年記念事業
『写真でふりかえる10年』



直江津学びの交流館 10周年記念事業
『利用者から届いたメッセージ』

(単位：千円)

決算書 (P366～P367)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館図書充実費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
14,381	14,298				601 (寄附金)	13,697
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	83				83	

【目的】

暮らしの情報や課題解決、調査研究に役立つ様々な分野の図書館資料を収集・保存し、広く市民に提供する。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和2年度目標

- ・図書館資料の適切な管理と効果的な活用を図るとともに、市民ニーズを踏まえた地域の情報基盤としての図書館サービスを提供する。
- ・高田図書館、浦川原分館及び頸城分館の利用数
 図書貸出者数：126,600人
 図書貸出冊数：523,000冊

○実施内容、これまでの経過等

- ・令和2年度受入冊数 6,856冊 (購入：5,842冊、寄贈：1,014冊)
- ・令和2年度購入実績

区分	全体 ①+②	高田図書館①				分館②
		一般書		児童書		
		一般用	ティーンズ コーナー			
冊数(冊) (割合%)	5,842	5,235	3,728 (71.2)	193 (3.7)	1,314 (25.1)	607
金額	11,340	10,425	8,074	322	2,029	915

決算書 (P366～P367)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館図書充実費		

・蔵書冊数（雑誌を除く。） (単位：冊)

施設名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
高田図書館	264,551	266,583	268,408	1,825
分館	36,411	36,761	36,920	159
合計	300,962	303,344	305,328	1,984

・貸出利用者数（団体を含む。） (単位：人)

施設名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
高田図書館	115,950	119,118	103,173	△15,945
分館	10,467	10,168	9,278	△890
合計	126,417	129,286	112,451	△16,835

※団体も1人として計算

・貸出冊数（団体を含む。） (単位：冊)

施設名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
高田図書館	477,218	480,036	420,103	△59,933
分館	35,154	34,785	30,735	△4,050
合計	512,372	514,821	450,838	△63,983

○目標達成状況

貸出利用者数は112,451人、貸出冊数は450,838冊となり、目標は達成できなかった。

【事業の成果】

図書館として多様な分野の図書資料を各館で連携しながら収集するとともに、県内外の図書館から必要な図書資料の借用を積極的に行い、利用者に提供した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための約3週間の臨時休館や、令和3年1月中旬の大雪による開館時間の短縮及び臨時休館の影響もあり、貸出利用者数・冊数とも目標は達成できなかった。
- ・一方で、臨時休館を行った月以外はおおむね前年度並みの利用があり、臨時休館前後の貸出利用は大きく伸びたことから、コロナ禍での図書利用の要求はむしろ高まっているとも考えられる。
- ・今後も、図書館資料の充実を進めるとともに、蔵書をいかしたテーマ展示などの図書紹介を工夫し、利用の増加に努めていく必要がある。

【執行残額について】

○その他 83

- ・消耗品費、装備委託料、通信運搬費ほか

(単位：千円)

決算書 (P366～P367)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	図書館管理電算化事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
23,328	23,223					23,223
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	105				105	

【目的】

図書館サービスの正確化、迅速化を図るため、図書館システム及び端末を適切に維持管理する。

令和 2 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和 2 年度目標

- ・図書館システム及び端末の適正な維持管理を図るとともに、市民ニーズを踏まえた利用しやすい図書館サービスを提供する。
- ・インターネットによる図書館資料予約処理件数：55,000 件

○実施内容、これまでの経過等

平成 29 年 2 月に 4 館でネットワーク化された図書館システムを適切に維持管理するとともに、利用者の意見や要望を取り入れながら、引き続き利用しやすい図書館サービスの提供に努めた。

<インターネット予約処理件数>

項目	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	前年度比較
インターネット予約処理件数	49,657	54,001	56,854	2,853
ホームページアクセス数	176,284	197,049	190,486	△6,563

○目標達成状況

インターネット予約処理件数は 56,854 件で、目標を上回った。

【事業の成果】

- ・平成 29 年 2 月にスマートフォン用サイトを設定したことから利便性が向上し、インターネット予約処理件数は毎年度増加している。
- ・ホームページサイト利用者の要望に応じて予約本の取り置き期限日を表示できるようにするなど、利用しやすいサイトづくりを進めている。

決算書 (P 366～P 367)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	図書管理電算化事業		

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・インターネット予約処理件数については、新型コロナウイルス感染症拡大防止や大雪による臨時休館の影響は見られず、目標を達成できた。
- ・図書館ホームページへのアクセス数は、全体では令和元年度に比べ減少しているものの、臨時休館をした令和2年4月は令和元年度比で4,105件の増となったことから、来館できない代わりにホームページから情報収集をしている様子が伺えた。
- ・今後も、図書館だより「パピルス」や市のホームページ、報道機関への情報提供などにより、広く市民にPRしていく。

【執行残額について】

○その他 105

- ・消耗品費、通信運搬費ほか

(単位：千円)

決算書 (P366～P367)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
69,208	68,513			2,200	632 (使用料 財産収入 諸収入)	65,681
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	695				695	

【目的】

市民の生涯学習活動の拠点施設として、高田図書館及び分館を適切に維持管理し、安全・安心な読書環境を提供する。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

- ・主な維持管理費(施設関係)

トイレ改修工事(高田図書館)	2,517
防火設備修繕(高田図書館)	373
空調機冷却水薬注装置交換修繕(高田図書館)	671
ホール系統空調機機器交換修繕(高田図書館)	528
排煙オペレーター修繕(高田図書館)	372

・図書館資料の配送

直江津図書館、浦川原分館、頸城分館及び公民館図書室を定期的に巡回し、高田図書館を起点に直江津図書館へは週6回、分館へは週3回、公民館図書室へは週1～2回、図書館資料の配送を行った。

○施設の管理実績

・利用者数

(単位：人)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
			計画	実績
入館者数(高田図書館のみ)	229,904	231,738	161,827	161,827
図書貸出利用者数(分館を含む。)	126,417	129,286	126,600	112,451

※入館者数には小川未明文学館利用者と、観桜会会期中の利用者を含む。

決算書 (P 366～P 367)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度		
			予 算	実 績	
①収入	使用料収入	72	50	60	33
	その他	297	32,466	2,513	2,799
	合計	369	32,516	2,573	2,832
②支出	施設維持管理費	28,554	31,785	28,963	28,633
	うち委託料	12,866	13,445	13,516	13,473
	その他	34,806	105,877	40,245	39,880
	合計	63,360	137,662	69,208	68,513
③公費投入額 (②-①)	62,991	105,146	66,635	65,681	
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)	498	813	526	584	

※④利用者は、高田図書館、分館の図書貸出利用者

【事業の成果】

高田図書館の快適な利用の環境を整えるため、便器を洋式に改修したほか、令和元年度に交換できなかった空調設備の機器部品交換等を行い、施設の長寿命化及び設備の安定化を図った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・高田図書館は平成 6 年に開館して 27 年が経過し、昇降機、消防設備等の諸設備及び建築物の老朽化が進んでいることから、利用者の安全確保と快適な読書環境の提供及び施設の長寿命化を図るため、引き続き優先順位を定めて修繕を実施していく。
- ・身近に本がある環境を提供するため、公民館図書室を窓口にした図書館資料の予約や受取、返却が円滑にできるよう、引き続き配送サービスに取り組み、利便性を図っていく。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を引き続き講じながら、利用者が安全・安心に利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

○その他 695

- ・共済費、費用弁償等 161 (現業会計年度任用職員の勤務実績による)
- ・普通旅費 60
- ・光熱水費 281
- ・委託料 43
- ・燃料費ほか 150

(単位：千円)

決算書 (P366～P367)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津図書館図書充実費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
6,231	6,225				263 (寄附金)	5,962
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	6				6	

【目的】

暮らしの情報や課題解決、調査研究に役立つ様々な分野の図書館資料を収集・保存し、広く市民に提供する。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和2年度目標

直江津図書館利用数

- ・図書及び視聴覚資料貸出者数：82,400人
- ・図書及び視聴覚資料貸出点数：296,000点

○実施内容、これまでの経過等

- ・令和2年度受入冊数 3,326冊(購入：3,022冊、寄贈：304冊)
- ・令和2年度購入実績

区分	直江津図書館				
		一般書			児童書
		一般用	鉄道図書 コーナー	ティーンズ コーナー	
冊数(冊) (割合%)	3,022	1,812 (59.9)	99 (3.3)	281 (9.3)	830 (27.5)
金額	4,894	3,075	196	380	1,243

・蔵書冊数(雑誌を除く。)

(単位：冊)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
	冊数	147,530	150,046	

決算書 (P366～P367)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津図書館図書充実費		

・貸出利用者数（団体を含む。） (単位：人)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
資料種別	図書・雑誌	75,531	76,890	66,952	△9,938
	視聴覚資料	6,227	5,347	3,548	△1,799
合計		81,758	82,237	70,500	△11,737

※団体も1人として計算

・貸出点数（団体を含む。） (単位：点)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度比較
資料種別	図書・雑誌	291,049	289,972	262,418	△27,554
	視聴覚資料	10,244	8,697	6,167	△2,530
合計		301,293	298,669	268,585	△30,084

○目標達成状況

貸出利用者数は70,500人、貸出点数は268,585点となり、貸出利用者数及び貸出点数とも目標は達成できなかった。

【事業の成果】

収集した図書等を活用し、直江津学びの交流館オープン10周年にちなんだテーマ展示や、直江津地区公民館などの講座や催しと連携し、関連する本の貸出し等を通じ、様々な本との出会いを提供した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための令和2年4月19日から5月10日までの臨時休館や、令和3年1月中旬の大雪による開館時間の短縮及び臨時休館の影響もあり、利用が減少した。
- ・コロナ禍においても催しや本の展示などを工夫して行うとともに、資料の充実を図ることによって利用の増加に努めていく。

【執行残額について】

○その他 6

- ・図書装備委託料ほか

(単位：千円)

決算書 (P368～P369)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津学びの交流館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
60,670	58,858				2,933 (使用料、財産収入、 諸収入)	55,925
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,812			46	1,766	

【目的】

市民の生涯学習活動や文化活動の支援を行うとともに、情報提供の場としての直江津学びの交流館・直江津図書館の適切な管理、運営を図る。

令和 2 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和 2 年度目標

- ・施設の安全を維持しながら、集会や各種講座、音楽、スポーツ、読書等、利用者がより快適に活動できる場の提供に努める。
- ・入館者数：246,000 人

○実施内容、これまでの経過等

・利用実績

開館日数：319 日

部屋別	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	利用件数 (件)	稼働率※ (%)	利用件数 (件)	稼働率※ (%)	利用件数 (件)	稼働率※ (%)
イベントホール	542	51.9	518	49.6	311	32.5
音楽室	690	66.1	587	56.2	339	35.4
小集会室	674	64.6	675	64.7	400	41.8
多目的ホールA	512	49.0	468	44.8	246	25.7
多目的ホールB	331	31.7	367	35.2	133	13.9
多目的ホールC	466	44.6	405	38.8	275	28.7
合計	3,215	51.3	3,020	48.2	1,704	29.7
貸館利用者数(人)	39,680		36,178		18,779	

※稼働率：1日のうち、午前・午後・夜間、全て利用された場合を100%とし、1回の利用を33.3%とする。

決算書 (P 368～P 369)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津学びの交流館管理運営費		

○施設の利用実績

・利用者数

(単位：人)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	
			目標	実績
入館者数	245, 609	242, 455	246, 000	175, 419

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	
				予算	実績
①収入	使用料収入	4, 082	3, 776	4, 500	2, 334
	その他	485	526	482	599
	合計	4, 567	4, 302	4, 982	2, 933
②支出	施設維持管理費	25, 665	27, 589	27, 374	25, 850
	うち委託料	10, 717	11, 388	11, 500	11, 493
	その他	28, 051	28, 774	33, 296	33, 008
	合計	53, 716	56, 363	60, 670	58, 858
③公費投入額 (②-①)		49, 149	52, 061	55, 688	55, 925
④入館者 1 人当たりの 公費投入額 (単位：円)		200	215	226	319

○目標達成状況

入館者数は 175, 419 人とどまり、目標には届かなかった。

【事業の成果】

コロナ禍ではあったが、様々な市民活動や学びの場として安心して利用いただけるよう、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、施設管理を行った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・入館者数、貸館利用件数及び利用者数の減少は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための令和 2 年 4 月 19 日から 5 月 10 日までの臨時休館や、令和 3 年 1 月中旬の大雪による開館時間の短縮及び臨時休館が影響したものと考えている。
- ・除菌や消毒、換気などをこまめに行い、安心して利用できる施設であること、また、施設前に 2 時間まで無料の駐車場があることを PR しながら、図書館だけでなく、各種集会や研修会などの会場として市内外から利用してもらえるよう取り組んでいく。

【執行残額について】

○入札差金 46

・複写機借上料

○その他 1, 766

・報酬、社会保険料、共益費負担金ほか

(単位：千円)

決算書 (P368～P369)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
36,333	32,134				3,470 (使用料、譲収入)	28,664
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	4,199			417	3,782	

【目的】

当市の歴史・民俗等について調査研究し、その成果を展覧会や図録等の刊行物で市民に紹介するとともに、安全で快適な施設の維持管理を行う。

令和 2 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

企画展開催事業 3,115

○令和 2 年度目標

入館者数：70,000 人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 企画展の開催

展覧会名	会期	内容	入館者数 (うち展覧会観 覧者数)
逸品展示 楊洲周延肉筆画展	4/1～ 6/28	高田藩士・橋本直義が楊洲周延として歩んだ浮世絵師の道を当館所蔵の肉筆画や浮世絵で紹介した。	9,575 人 (1,044 人)
企画展 直江津今町と北前船の時代	7/18～ 10/18	古くから日本海側有数の港町として栄えた直江津今町と「日本遺産」に認定された北前船の関わりを紹介した。	16,030 人 (5,085 人)
企画展 探検！むかしの暮らし	11/14 ～3/7	昭和のくらしの道具を中心に、身の回りの生活の移り変わりを紹介した。	9,663 人 (3,573 人)
展覧会期間中の入館者数合計…(a)			35,268 人 (9,702 人)
常設展示のみの期間の入館者数…(b)			10,290 人 (1,981 人)
令和 2 年度の総入館者数 (4/1～3/31) …(a) + (b)			45,558 人 (11,683 人)

決算書 (P368～P369)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

(2) 教育・普及事業

事業名	内 容	開催日	参加者数
展示解説会	常設展示「越後の都」 ※予約による団体解説を実施	通年	17 件 760 人
	企画展「探検！むかしのくらし」 ※小学 3 年生の授業に対応	会期中	44 校 (38 校) 1,479 人 (1,267 人) ※ () は市内
出前講座・ 職員派遣	新潟県社会福祉協議会 シニアカレッジ新潟	6/9	50 人
	新潟日報カルチャースクール上越教室講座	7/31	10 人
	高田地区公民館事業 オーレン教養カレッジ	9/4	30 人
	金谷地区公民館事業 高田藩と戊辰戦争	9/16	各日 10 人
		9/23	
		9/30	
	八千浦地区公民館事業 ふるさと探訪	9/24	10 人
	新潟大学非常勤講師	11/4	各日 100 人
		11/11 11/18	
	社会教育課事業 謙信 KIDS 「上越の城」	11/14	16 人
上越エネルギー懇談会 エネルギーのまち	11/28	100 人	
高田南城高等学校社会人講座	12/7	各日 30 人	
	12/14		
刊行物の 発行	名称：『企画展 直江津今町と北前船の時代』パンフレット 規格：A4 判 24 ページ 部数：1,000 部		
	名称：『探検！むかしのくらし』探検ブック ※小学 3 年生用のワークシート 規格：A5 判 16 ページ 部数：2,000 部		
	名称：『上越市立歴史博物館 年報・紀要 第 1 号』（デジタル版） ※ホームページ上で公開 規格：A4 判 106 ページ		
ワークシート の作成・配布	常設展示用の子ども向けワークシート（15 種類）を作成・配布		

(3) 調査・研究事業及び資料管理事業

市内に所在する歴史・民俗資料の調査・収集及び歴史資料や図書の購入を行った。

○目標達成状況

・入館者数は 45,558 人となり、目標を達成することができなかった。

決算書 (P 368～P 369)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

民俗資料整理事業 3,284

○実施内容、これまでの経過等

- ・平成 19 年度以降、各区の民俗資料の統一的な整理を進めてきており、平成 29 年度に合併前上越市及び各区の民俗資料の再整理と台帳化作業及びデータベース化が終了した。
- ・平成 25 年度から岡沢拠点収蔵施設を整備し、民俗資料の一元管理を進め、平成 30 年度までに各区に分散収蔵されていた民俗資料の移動を計画どおり終了した。
- ・令和 2 年度は、黒岩拠点収蔵施設に保管している資料を岡沢拠点収蔵施設に移動・集密化を図るとともに、平成 28 年度以降の新規寄贈資料の台帳化作業を継続して行った。

施設の維持管理 25,735

○実施内容

歴史博物館、岡沢拠点収蔵施設及び黒岩拠点収蔵施設の維持管理を適正に実施した。

○施設の管理実績

・利用者数等

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	
			計 画	実 績
入館者数	41,134 人	82,741 人	70,000 人	45,558 人

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	
				予 算	実 績
① 収入	使用料収入	4,924	5,176	4,660	3,370
	その他	396	104	90	100
	合計	5,320	5,280	4,750	3,470
② 支出	施設維持管理費	32,514	26,025	29,024	25,735
	うち委託料	11,665	12,858	14,316	13,079
	その他	11,399	5,258	7,309	6,399
	合計	43,913	31,283	36,333	32,134
③ 公費投入額 (②-①)		38,593	26,003	31,583	28,664
④ 利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位：円)		938	314	451	629

決算書 (P 368～P 369)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

【事業の成果】

- ・企画展「直江津今町と北前船の時代」を開催し、高田藩の外港であった直江津今町が江戸時代から明治時代まで北前船の寄港地となり、高田城下や頸城郡内、信濃へと物資を流通させる拠点として地域を支えたことを紹介した。
- ・時宜を得た展覧会の開催によって、市民が地域の歴史や文化に触れる機会を提供し、郷土の歴史・文化への理解を深めることができた。
- ・例年開催している「探検！むかしのくらし」では、44 校 1,479 人（うち市内 38 校 1,267 人）の小学生が見学した。
- ・黒岩拠点収蔵施設に保管していた民俗資料を岡沢拠点収蔵施設に移動し、施設の集約と資料の一元管理を進めた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・入館者数目標を達成できなかった主な要因は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による全国を対象とした緊急事態宣言に伴い臨時休館を行ったことや、宣言解除後も新型コロナウイルス感染症の影響が続いたこと、さらには、冬季の大雪により臨時休館を行ったことによるもの。
- ・引き続き施設の新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できるよう、適切な管理運営を行う。
- ・収蔵資料や市内の歴史に関する研究を深め、新たな知見の蓄積に努めていくとともに、その成果を市民に還元するため、論文発表や講座・展覧会を実施していく。

【執行残額について】

○入札差金	417
・印刷製本費	237
・委託料	151
・備品購入費	29
○その他	3,782
・報酬、期末手当、社会保険料、報償金	453
・費用弁償、普通旅費	388
・消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料	1,564
・通信運搬費	174
・委託料	1,093
・使用料、借上料	94
・備品購入費、図書購入費	6
・負担金	10

(単位：千円)

決算書 (P370～P371)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
31,218	29,053				3,400 (使用料、謝収入)	25,653
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	2,165			252	1,913	

【目的】

小林古径及び当市ゆかりの美術作家の作品を収集、保管、展示し、あわせてこれらの作品等に関する調査研究を行う。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

企画展開催事業 4,249

○令和2年度目標

入館者数：10,000人

○実施内容、これまでの経過等

・開館記念展「じょうえつ 美術のチカラ」

会期：令和2年10月3日(土)～令和3年3月21日(日)

前期…10月3日～12月21日／後期…1月5日～3月21日(作品入替え)

内容：明治時代から令和に至る約150年間に生み出された小林古径を始めとする上越市ゆかりの作家53人の作品を前期・後期含めて145点展示した。

第1部「小林古径 人と作品」(古径記念室)

第2部「アートでつなぐ上越の150年」(企画展示室・古径邸)

〈主な出品作家〉

【日本画】小林古径・川合清・柴田長俊・洞谷亜里佐・川崎日香湊

【油彩画】牧野虎雄・富岡惣一郎・倉石隆・村山陽・玉井力三

【写真】濱谷浩

【版画】棟方志功・舟見儉二

【彫刻】岩野勇三・滝川毘堂・峯田敏郎

【陶芸】齋藤三郎・志賀重雄・内田邦夫

その他：毎週火曜日の午前中は「よちよちタイム」として、乳幼児を連れて入館した保護者1人を無料とした。

決算書 (P370～P371)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館管理運営費		

・ 展覧会関連事業

事業名	開催日	参加者数
映像で楽しむ作家トーク	10月11日・25日、11月8日・22日、12月3日、 2月14日・28日、3月14日	67人
学芸員によるギャラリートーク	10月11日・25日、11月8日・22日、12月3日、 2月14日、3月14日	85人
デッサンに挑戦!	11月14日	25人
日本画絵具に親しむ	1月31日	10人
庭園ライトアップ	10月3日～10月31日の金・土曜日 11月1日～10日の休館日を除く毎日 11月13日、14日、20日、21日、22日 (合計22日間)	381人
美術館キャンドルナイト (古径生誕日無料開館)	2月11日	845人
どようワークショップ	毎週土曜日	143人
上越教育大学連携事業 ヨリ・ミチ図工室	10月14日、10月21日、10月28日、11月12日、 11月18日、12月2日、12月9日	157人

○目標達成状況

入館者数は10,790人となり、目標を達成した。

施設の維持管理 24,804

○実施内容

- ・ 小林古径記念美術館、小林古径邸・画室及び庭園の維持管理を適正に実施した。
- ・ 所蔵作品を適正に保管管理した。

○施設の管理実績

- ・ 利用者数等

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
			予算	実績
入館者数	-	-	10,000人	10,790人

※平成30年度及び令和元年度は、増改築工事に伴う休館のため、入館者実績なし

決算書 (P370～P371)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料	-	-	3,472	3,019
	その他	-	-	413	381
	合計	-	-	3,885	3,400
②支出	施設維持管理費	3,965	4,610	25,265	24,804
	うち委託料	178	326	14,297	14,952
	その他	137	130	5,953	4,249
	合計	4,102	4,740	31,218	29,053
③公費投入額 (②-①)		4,102	4,740	27,333	25,653
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)		-	-	2,733	2,377

※平成30年度及び令和元年度は、増改築工事に伴う休館のため、使用料収入なし

【事業の成果】

- ・令和2年10月3日のオープンから開館記念展を開催し、小林古径を始めとする当市ゆかりの作家の作品を市内外に広く発信することができた。
- ・展覧会に関連する多彩なイベントを開催し、市民が気軽に美術に親しめる機会を提供することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・引き続き施設の新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できるよう、適切な管理運営を行いながら市民の芸術鑑賞の場を提供し、入館者数の増加を図る。
- ・企画展開催に向けた出品交渉や作品調査などを計画的に実施する。
- ・国登録有形文化財である小林古径邸・画室を活用した事業や庭園ライトアップを行うなど、展覧会開催とあわせて施設の活用に努め、美術館全体の魅力を高める。

【執行残額について】

○入札差金	252	
・委託料		
○その他	1,913	
・報酬、報償費		135
・費用弁償、普通旅費		661
・消耗品費、燃料費、食糧費、印刷製本費、光熱水費		262
・通信運搬費、広告費、手数料、保険料		418
・委託料		100
・使用料		333
・負担金		4

(単位：千円)

決算書 (P370～P371)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	歴史民俗資料館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
2,190	2,017				27 (使用料)	1,990
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	173				173	

【目的】

牧歴史民俗資料館が収蔵する国史跡「宮口古墳群」の出土品（新潟県指定有形文化財）を始め、水科古墳群や菅原古墳出土品並びに油田関係資料を含む民俗資料を適正に保管し、展示する。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和2年度目標

- ・入館者数：600人
- ・出土品のほか、貴重な民俗資料を展示している施設の特徴をいかし、小学校等の校外学習や公民館講座等での利用を促進し、入館者数の維持を図る。

○実施内容、これまでの経過等

- ・「宮口、水科、菅原古墳群」の出土品や民俗資料を適正に保管し、入館者が快適に施設を利用できるよう維持管理を行う。
- ・開館期間 4月～11月
- ・開館時間 土曜日・日曜日・休日の午前9時～午後4時
※平日は希望見学（牧区総合事務所で鍵を管理）

○施設の管理実績

- ・利用者数等

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
			計画	実績
入館者数	657人	656人	600人	329人

決算書 (P370～P371)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	歴史民俗資料館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	67	77	70	27
	その他	-	-	-	-
	合計	67	77	70	27
②支出	施設維持管理費	1,951	2,026	2,190	2,017
	うち委託料	324	314	317	317
	その他	-	-	-	-
	合計	1,951	2,026	2,190	2,017
① 公費投入額 (②-①)	1,884	1,949	2,120	1,990	
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)	2,868	2,971	3,533	6,049	

○目標達成状況

入館者数は329人となり、目標を達成することができなかった。

【事業の成果】

市内小学校の総合的な学習の時間や公民館講座などにおいて、幅広い年齢層に対し地域の歴史文化について学習する場を提供できた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・入館者数目標を達成できなかった主な要因は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による全国を対象とした緊急事態宣言に伴い臨時休館を行ったことや、宣言解除後も新型コロナウイルス感染症の影響が続いたことによるもの。
- ・引き続き施設の新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できるよう、適切な管理運営を行う。
- ・近隣小学校の利用促進に努めるとともに、歴史博物館を始め他の歴史系展示施設でのPRに努める。

【執行残額について】

○その他	173
・報酬	43
・費用弁償	2
・燃料費、印刷製本費、光熱水費	57
・通信運搬費、手数料	8
・備品購入費	63

(単位：千円)

決算書 (P370～P371)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館増改築事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
49,930	48,326			20,500		27,826
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,604			1,478	126	

【目的】

小林古径邸敷地内に古径作品や上越ゆかりの美術作品等を公開するための展示施設を整備する。

令和 2 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和 2 年度目標

令和 2 年秋の開館に向け、外構工事等の周辺整備を行う。

○実施内容

(整備方針)

- ・小林古径を中心として、上越ゆかりの美術作品や他館から借用した美術作品など、多様な企画展を開催するために必要な施設整備を行う。
- ・展覧会活動のほか、子どもから大人まで気軽に美術に親しめるワークショップを開催する。

(主な整備内容)

- ・増改築工事：展示室（古径記念室・企画展示室）、一時保管庫（収蔵庫）、多目的室（二ノ丸ホール）、ロビー、トイレなど
- ・その他整備工事：庭園整備、古径塔移設など

(整備スケジュール)

年度	実施内容	事業費	
平成 27 年度	内部検討、基本設計	実績	1,624
平成 28 年度	基本設計、地質調査	実績	7,331
平成 29 年度	実施設計	実績	21,327
平成 30 年度	建設工事	実績	85,890
令和元年度	建設工事、警備工事、ガス消火設備設置工事等	実績	382,744
令和 2 年度	外構工事、石碑移設、備品購入等	実績	48,326
事業費合計			547,242

決算書 (P370～P371)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館増改築事業		

【事業の成果】

工事の進捗管理を適切に行い、計画どおりに外構工事を実施して増改築事業を完了した。

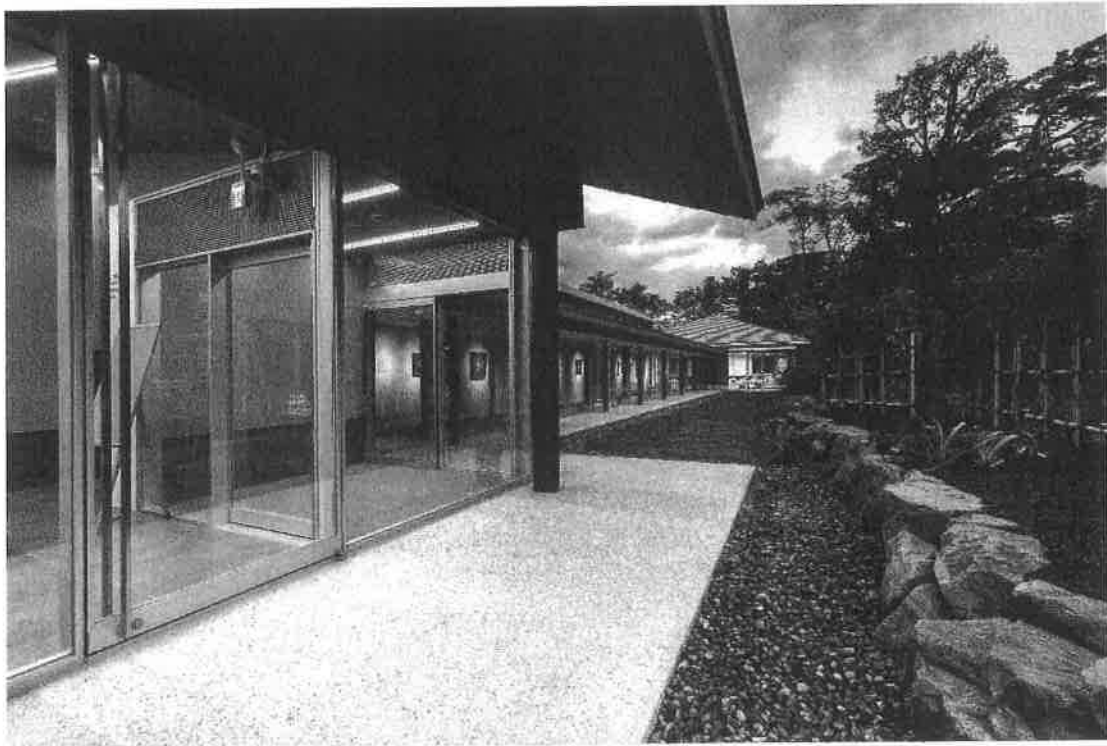
【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

来館者に対して安全で快適な鑑賞環境を整えるとともに、収蔵品を適正に保管・管理できるよう施設の維持管理を適正に行う。

【執行残額について】

- 入札差金 1,478
 - ・委託料 844
 - ・備品購入費 634

- その他 126
 - ・普通旅費 84
 - ・通信運搬費 42



外構工事完了状況

(単位：千円)

決算書 (P370～P371)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	スキー発祥記念館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
5,930	5,564			700	457 (使用料、寄付金)	4,407
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	366			211	155	

【目的】

日本におけるスキー発祥地としてスキーの歴史的変遷に関する資料等を保存・展示することにより、郷土に対する理解を深め、教育、学術及び文化の発展に寄与する。

令和2年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和2年度目標

入館者数：2,900人

○実施内容、これまでの経過等

- ・日本スキー発祥記念館に収蔵する資料について再整理計画を作成し、旧目録に基づく資料確認などを実施した。
- ・夏休み及び金谷山スキー場営業期間中に、金谷山スーパーボブスレーやスキー場利用者に対して入館料の割引を実施した。また、実施に当たりPRポスターをスーパーボブスレー乗り場などに掲示した。(割引利用者 平成30年度：65人、令和元年度：87人、令和2年度：10人)
- ・冬季シーズンに合わせて、ポスター・チラシを作成し新潟県、長野県等近隣のスキー場やホテル等、市内各施設に配布し誘客を促した。
- ・トイレの改修(洋式化)を実施した。

○施設の管理実績

- ・利用者数等

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
			計画	実績
入館者数	2,737人	2,984人	2,900人	1,404人

決算書 (P370～P371)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	スキー発祥記念館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度		
			予算	実績	
① 収入	使用料収入	288	315	407	257
	その他	-	-	900	900
	合計	288	315	1,307	1,157
② 支出	施設維持管理費	4,790	4,904	5,697	5,423
	うち委託料	2,828	2,831	2,849	2,813
	その他	129	151	233	141
	合計	4,919	5,055	5,930	5,564
③ 公費投入額 (②-①)	4,631	4,740	4,623	4,407	
④ 利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)	1,692	1,588	1,594	3,139	

○目標達成状況

入館者数は 1,404 人となり、目標を達成することができなかった。

【事業の成果】

- ・日本スキー発祥の歴史・文化を学ぶことができる場を提供し、郷土に対する理解を深めるとともに、郷土への愛着の醸成に寄与した。
- ・収蔵資料の再整理により、今後の展示等の活用にあ資する資料の一部について詳細な情報をまとめることができた。令和 3 年度も継続して事業を行っていく。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・入館者数目標を達成できなかった主な要因は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による全国を対象とした緊急事態宣言に伴い臨時休館を行ったことや、宣言解除後も新型コロナウイルス感染症の影響が続いたこと、さらには、冬季の大雪により臨時休館を行ったことによるもの。
- ・引き続き施設の新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できるよう、適切な管理運営を行う。
- ・チラシや小冊子の配布を通じて市内の小中学校へ周知し、利用促進に努める。
- ・令和 3 年は日本スキー発祥 110 年の年であることから、歴史博物館の企画展と併せて日本スキーの歴史・文化を多くの人に伝えられるよう努める
- ・収蔵資料の再整理を継続し、計画的に進めていく。

【執行残額について】

○入札差金	211
・委託料	8
・工事請負費	203
○その他	155
・消耗品費、光熱水費、印刷製本費、修繕料	115
・通信運搬費	11
・委託料、借上料	29

(単位：千円)

決算書 (P370～P373)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	高田城三重櫓管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
12,118	10,274				3,114 (使用料、財源収入 諸収入)	7,160
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,844	19		140	1,685	

【目的】

高田城を象徴する施設として適切な維持管理を行うとともに、歴史や価値を広く周知し、教育、学術及び文化の振興を図る。

令和 2 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和 2 年度目標

年間入館者数 32,000 人

○実施内容、これまでの経過等

- ・歴史博物館常設展示との相乗効果を図るため、藩政時代の高田城と現在の高田城址公園を結び付けるパネル展示や、公園内の発掘調査で出土した土器や瓦などを中心とした展示へと内容を変更した。
- ・観蓮会期間中において、早朝開館やライトアップを行った。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、感染拡大防止について注意喚起するための着色点灯を行った。
- ・施設の維持管理として、電話回線や管理棟マンホールポンプ更新の修繕などを行った。

○施設の管理実績

・利用者数等

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	
			計画	実績
入館者数	27,445 人	32,437 人	32,000 人	12,472 人

決算書 (P370～P373)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	高田城三重櫓管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	6,352	7,642	7,773	3,038
	その他	105	105	67	76
	合計	6,457	7,747	7,840	3,114
②支出	施設維持管理費	14,356	9,600	12,068	10,224
	うち委託料	6,398	6,506	8,617	7,341
	その他	486	50	50	50
	合計	14,842	9,650	12,118	10,274
③公費投入額 (②-①)		8,385	1,903	4,278	7,160
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)		306	59	134	574

○目標達成状況

入館者数は 12,472 人となり、目標を達成することができなかった。

【事業の成果】

現在の高田城址公園と高田城の歴史を結び付ける展示内容としたことで、歴史博物館とは異なる視点から高田城を学ぶことができるようになり、歴史博物館と高田城三重櫓の一層の連携を図る体制を整えた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・入館者数目標を達成できなかった主な要因は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による全国を対象とした緊急事態宣言に伴い臨時休館を行ったことや、宣言解除後も新型コロナウイルス感染症の影響が続いたこと、さらには、冬季の大雪により臨時休館を行ったことによるもの。
- ・引き続き施設の新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できるよう、適切な管理運営を行う。
- ・学校の学習目的での利用も増えていることから、歴史博物館との連携を強め、歴史学習も可能な施設として展示等に取り組む。

【執行残額について】

- 事業費節減 19
 - ・印刷製本費
- 入札差金 140
 - ・委託料
- その他 1,685
 - ・消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料 502
 - ・通信運搬費 19
 - ・委託料 1,139
 - ・使用料 25

(単位：千円)

決算書 (P372～P373)	10 款 5 項 5 目 水族博物館費	所管課等	教育総務課
事業名	水族博物館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市・債	その他	一般財源
370,174	321,703				310,097 (諸収入等)	11,606
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	48,471	46,834		715	922	

【目的】

市民の教育、学術及び文化の向上を図るための学びの場として、さらには、市民の楽しみの場、憩いの場として水生生物の飼育展示や教育プログラムを実施するとともに、入館者の安全確保を図るため、施設の適切な維持管理を行う。

令和 2 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和 2 年度目標

展示の質や効果の更なる向上など、入館者の動向やニーズを踏まえた取組を実施するとともに、施設のリニューアルについて実施時期を含めた検討を行う。

○実施内容、これまでの経過等

- ・指定管理者の知見や技術に基づき、管理運営を進めた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための様々な対策を実施した。
- ・コロナ禍において、来館が困難な方々に情報を届けるための SNS やインターネット上での動画配信にも取り組んだ。
- ・内照式解説板の設置、冷水系展示水槽の二重ガラス化、種名板の設置角度の変更などを実施した。
- ・リニューアルについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって先行きが見えない状況になったことから、状況の変化を注視しながら引き続き検討を行うこととした。
- ・鯨類の死亡が相次いだことを受け、専門家による上越市立水族博物館鯨類飼育環境検証委員会を設置し、鯨類の飼育環境について客観的考察を受けた。

○施設の管理実績

- ・入館者数等

区分	平成 30 年度※	令和元年度	令和 2 年度	
			計画	実績
入館者数	732,759 人	514,946 人	438,958 人	206,227 人

※平成 30 年度の開館期間は、6 月 26 日から 3 月 31 日まで